

# 認知症コラム



## 認知症の方の家族の話 岸正晴氏 Vol.2



よこすか若年認知症の会タンポポ代表であり、認知症の方の家族でもある岸正晴氏に話を伺いました。

### 【妻を守っていこうと思ったきっかけ】

病状が進行していくにつれて、トイレの手伝いが必要になっていきました。妻は私の顔はわかるけれど、後頭部を見ても誰か分からない。だから、私が頭を下げてパンツを下ろすと、「知らない男が私のパンツを下げている」と思うのか蹴飛ばされます。それで頭にきて、「この野郎！何するんだ！」と妻の脛を殴るのは日常茶飯事でした。でも、妻は脛のあざを見て「どこかにぶつけて痛い。」と言うのです。私が殴ったとは決して言わない。それを聞いているうちに「暴力を振るったことを責めないなんて、私は妻に守られているのかな。ならば、私が守らなければ誰が妻を守るんだ。」と思うようになり、妻に手を上げることを止めたのです。

### 【笑った方がお世話しやすい】

認知症の人との関わりでは笑うことがとても大切だと気付きました。怒っていた時は下着をはかせようとしても必ず拒否されていたのですが、蹴られても、笑いながら「おい、パンツはくぞ。」と言うと、すんなり協力してくれるようになりました。「なんだ、笑った方がやりやすいのか」と気づいたきっかけでした。うんちの歌を歌ったり踊ったりすると、ケラケラ笑ってトイレに行ってくれるのです。笑ってくれるとこちらも気持ちが悪くなります。怒らない・殴らないを徹底して、笑い飛ばすようにすると、妻も穏やかになりお世話もずっと楽になりました。だから、「バカやろう！ふざけんじゃないよ！」とは口にしながらも笑顔で怒るようにしていました。すると、自然と私のイライラも解消されていきました。

### 【家族の立場からのメッセージ】

なんだかんだ言いながら妻の行動を見ていると情けなくなったり、泣きたくなったりすることもありました。もちろん、泣くことは悪いことじゃない。辛い時は泣きたいだけ泣いてもいい。だけど、たくさん泣いても、泣いた分だけ笑うのがいいんじゃないかなと思います。私は「100の涙より101の笑いを。」という主義です。そんな形で、何か失敗して落ち込んだり涙を流すことがあっても、それ以上にケラケラ笑えるといいですね。

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)